

## は新潟県 火打山・妙高山縦走記

山行日：2021年7月22日（木）～7月24日（土）

仲井 照雄

7月23日（金） 前日泊まった民宿のご主人に、火打山登山口の笹ヶ峰（標高1300m）まで、車で送っていただいた。途中、子牛を育てるための牧場が広がり、牧歌的な雰囲気漂う。本日の天気予報では、午後にわか雨があり、降水確率は30%。今も山手に雲がかかっている。火打山に登る午後に雨に遭わなければいいのだが。真夏であるためか、市街より高いにもかかわらずそれほど涼しく感じない。

午前7時45分 登山口で雷鳥保護協力金500円と登山届を提出して出発する。体力と午後の天気の悪化が気になる。既に早朝から200人近く登っているという。火打山の山頂までの9kmの間、1km毎に標識が道端に設置してある。ブナ林の中を黒沢の溪流に沿って歩く。この辺りはブナ帯の上部になるという。林の中を登り続ける。木陰が直射日光を避けてくれる。しかし、額や背中から汗が止まらない。

午前8時20分 黒沢橋を通過。大きな岩と岩の間から水が生きよいよく流れ落ちる。ごっごつした岩や露出した木の根をまたいで歩く。さらに、木々の間を歩き続ける。喉の渇きを感じ、頻りに水分補給をする。

午前10時20分 富士見平（2000m）に到着。登山口から約700m、2時間近くひたすら登ってきた。この辺りからなだらかな山並みとなり、視界が開けるようになる。気分が軽く感じる。左前方に雲のかかった火打山が見える。実際見ると、山の大きさを感じる。9合目辺りの白い斑点状の残雪が、標高が上がってきたことを実感させる。ここは、冬は豪雪地帯。しばらくすると、稜線上に、本日泊まる高谷池ヒュッテの赤い急勾配の屋根が見えてきた。十二曲がりて疲れた体には、元気が湧いてくる。

午前11時20分 高谷池ヒュッテ（2000m）に到着。建物に入ると、マスクを着用する。検温後、宿泊手続きをし、昼食をとる。新型コロナウイルス対策のため、宿泊者数を定員の50%に限定しているという。このため、寝室はゆったり余裕ある。隣の境に透明の飛沫防止アクリル板が張ってある。今夜はリラックスして寝られそうだ。

午後0時30分 ヒュッテに荷物を置き、いよいよ火打山（2461m）へ向かう。これまでの登りの斜面から、なだらかな平坦に変わる。高原湿原が広がる。小さな尾瀬のような景色である。直径50m～100mの程の池塘が点在している。目の前に雪渓が広がる。青・白・赤・黄の様々な色の高山植物群が咲いている。調べると、チシマザサ・ハクサンコザクラ・ツガザクラ・チングルマ等。7月下旬までが開花期という。いい時期に来られた。あちこちで野鳥の囀りも聞える。特に、ウグイスの力強い声がよく聞こえる。整備されたずっと伸びた木道を何百mと歩く。景色に魅了されながら写真を何枚も撮るので、先が進まない。期待以上の情景に気分が晴れやかになる。

引き続き山頂に向かって歩く。湿原を過ぎると、登りが急になる。山容に迫力を感じる。足元の周囲ではクマザサやハイマツのような植物が広がってきた。

一方、雲が空全体に広がり出し、天気が怪しくなってきた。パラパラと小雨が降り出す。天気予報どおり、午後は雨模様になるのか。9合目まで登ってくると、数km先の焼山の雲間から雷鳴が聞える。自分と同じ標高で数回音がしている。ここまで来ると、周りが雲と空で避難場所がない。樹林帯は下の方である。

午後2時10分 不安を抱きながら、火打山山頂に到着。幸い天気は回復に向かい、上空から強い日差しが刺す。雲が流れ、一気に晴れた。暑い。遠くに明日登る妙高山が見えるが、山頂は雲がかかって急峻な印象である。

午後3時30分 高谷池ヒュッテに戻り、宿泊する。

7月24日(土) 午前6時40分 高谷池ヒュッテを出発し、妙高山(2454m)を縦走し燕温泉(1170m)まで下るコース。朝、昨日荷物を担いでいたせいか、右腰に違和感を感じる。日頃の体幹の鍛錬不足を反省する。見上げると青空が広がっている。午前中は晴れそうだ。今日は、妙高山直下の急登と、下りの鎖場の2箇所が慎重を要するという。登山道沿いにはクマザサが広がっている。

午前8時20分 大蔵乗越(2150m)に到着。目前に巨大な妙高山が聳えているはずだが山頂付近は雲がかかって見えない。昨日同様、次第に雲が広がってきた。時折、強い日差しが刺す。やがて小さな雪渓をトラバースする。雪渓の空洞の底で水が流れている音がする。所々痩せた斜面を慎重に歩く。なだらかな火打山と対照的に、妙高山は荒々しい火山の印象だ。

午前9時15分 長助池分岐に到着。いよいよここから急坂が続く。木々の間に高さ3m位の岩があちこちに見えてきた。妙高山が爆発したときの溶岩だろうか。硫黄の臭いが漂う。登りがきつくなる。息を整えないと歩けない。汗がどんどん出るため、頻繁に水分補給する。麓の平地より湿度は低い、気温は高い。一方、妙高山から下ってきた登山者は肩で息をせず、楽そうに歩く。やがて山頂の稜線が見えてきた。

午前10時55分 妙高山北峰(2446m)の到着。続いて妙高山南峰へ向かう。

午前11時20分 妙高山南峰(2454m)の到着。石川県から日帰り登山で来た登山者と談笑する。麓の山は雲が張り付いているが、上空は青空が広がっている。直射日光で暑い。これから燕温泉までひたすら下る。鎖場(2260m)に到着。自然石をくり抜いた足場を鎖を持ちながら、一步一步慎重に30m近く下る。斜度は30度くらいはあるか。ここまで来れば、危ない箇所は終わる。

午後1時15分 天狗堂(1930m)に到着。妙高山山頂から約500m下ってきて、低地の樹木が増えてきた。蒸し暑さも感じる。

午後4時 燕登山道を下り、硫黄臭が強くなる。近くに温泉の源泉があるようだ。最終

地の燕温泉に到着。午後の大きな天気崩れもなく、無事に終わる。